

平安時代の宗教

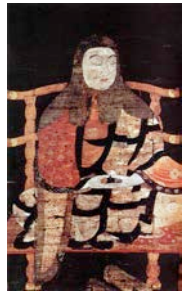
Overview

- 天台宗
- 真言宗
- 平安時代の神道——神仏習合の進展
- 大衆宗教
- 末法の時代における信仰

天台宗

最澄 (767-822)

- 近江の豪族の出身。19歳の時、東大寺で受戒。
- 比叡山で研究と修行。比叡山は日吉（ひえ）神が住む山とされた霊山であった。比叡山寺を建て、日吉神を守護神として祀った（現在は日吉大社となっている）。
- 天台教学をもっとも優れた教えと考えた。



天台教学

- 隋の時代、天台山の智顛 (ちてん) によってまとめられた教学。
- 多様かつ矛盾する仏教の教えを整理・体系化し（教相判釈）、法華経（The Lotus Sutra）を最高で最後の教えとした。

天台宗の形成

- 804年、遣唐使船で唐に渡る。天台山で天台教学を学ぶ（8ヶ月）。
- 805年、天台宗を開く。法華、禪、戒、密教、浄土教を合わせる。
- 812年、空海と断交。
 - 奈良仏教と最澄は対決、空海は妥協。
- 818年、比叡山に大乘戒壇を作る運動を開始。
 - 国家から一定の距離を置いた仏教となることを目指す。
- 822年、死去。866年、「伝教」の大師号を朝廷から与えられる。

天台宗の寺院



比叡山延暦寺 根本中堂



三千院門跡 往生極楽院



妙法院門跡 三十三間堂



雙珠院門跡

真言宗

空海 (774-835)

- 讃岐国の豪族の出身。20代を通じて、四国の山岳や山辺で修行を重ねる。
- 804年、中国に渡り、長安で密教を学ぶ。唐の密教の最盛期、恵果から教えを受け、遍照金剛の名を与えられる。
- 2年後の806年帰国。中国では842年の仏教弾圧で、密教はほぼ途絶えてしまう。



密教 (esoteric Buddhism)

- 6-7世紀、インドで大乘仏教の最後の流れとして成立。
 - 密教はチベットにも伝えられ、チベット仏教が成立。
- 大日如来 (Mahavairocana) を宇宙の根本仏と考える。金剛界 (The Diamond Realm) と胎蔵界 (The Womb Realm) をつくっているとされる。これを図絵として表したのが曼荼羅 (mandala) 。
- 事相 (護摩法をはじめとする呪術的な加持祈祷) と教相 (大日如来を中心とする世界についての理論) のバランス。
- すべての人間は大日如来の現れで平等。宇宙の本質である大日如来と一体となることができる (即身成仏) 。



胎蔵界曼荼羅



金剛界曼荼羅

真言宗の形成

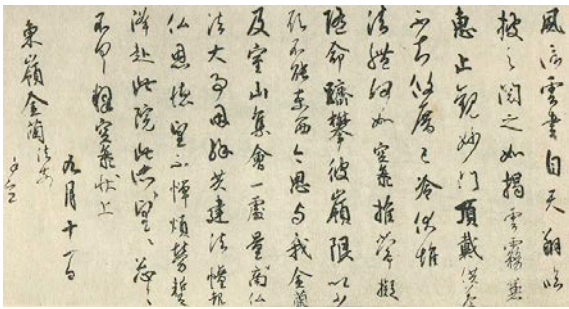
- 816年、高野山に密教の道場を開く。後の高野山金剛峯寺。
- 823年、朝廷から京都の東寺を与えられる。寺号を教王護国寺とあらためる。828年、隣に綜芸種智院という学校をつくる。
- 832年、高野山に入る。
- 835年、入滅 (61歳) 。
- 921年、醍醐天皇から「弘法大師」の号をおくられる。

密教美術の発展

- 三密：身 (body) ・口 (speech) ・意 (mind)
 - 一定の作法で仏に働きかける。
- 彫像、図像、曼荼羅が多数作られる。
 - 密教即芸術

民衆生活の中の空海

- 空海に関する数々の伝説
 - 空海ゆかりの井戸、池、温泉は全国各地にある。平仮名、讃岐うどんも空海がつくったという伝説がある。
- 書道
 - 「弘法にも筆の誤り」「弘法筆を選ばず」
- 四国八十八カ所の遍路
 - 空海と「同行二人」で歩む行とされてきた。



空海筆『風信帖』

平安時代の神道

— 神仏習合の進展 —

神道と仏教

- 927年、「延喜式」が作られ、神祇制度が整う。
- 神仏習合が進む。
 - 九州宇佐地方の神である八幡神（鉦産、鍛冶の神）が大仏建立を助けたことから、八幡神は仏教を守護する善神とされた。平安初期には都を鎮護する神として石清水に祀られた（石清水八幡宮）。



石清水八幡宮 本殿

本地垂迹説

- 平安中期には、本地垂迹説 (the manifestation theory) が説かれるようになる。
- インドに起源を持つ。
- 天台宗、真言宗によって、神々の本地仏が説かれるようになる。
 - 天照大神 ← 大日如来
 - 八幡神 ← 阿弥陀如来

仏教による神道の包括

- 本地垂迹説の普及とともに、神社ではその本体である仏を「神宮寺」や「別当寺」をつくって祀ることが一般化する。
- 伊勢神宮、出雲大社などの高位の神社以外では、主導権が神宮寺や別当寺に移っていく。
- 神道の骨組みを残したまま、仏教が神道を包括していく。また、神道は仏教の影響を受けて、教義や儀礼を整えていく（日本型「包括主義」）。

大衆宗教

陰陽道 (おんみょうどう)

- 陰陽五行説に基づいて、年、日、時刻、方角、人の一生などについて吉凶を説く。

- 五行説：万物は木・火・土・金・水の五元素から成るという説。

- 安倍晴明 (921-1005)

- 晴明神社



疫病神退治をする安倍晴明 (泣不動縁起より)

御霊信仰

- 御霊信仰の例

- 869年、疫病が大流行。占いにより牛頭天王（水の神、疫病を支配する神。神仏習合では、スサノオの本地、薬師如来の垂迹とされた）のたたりとわかる。祇園社（1868年に八坂神社に改名）で牛頭天王を祀る。祇園祭の起源。

- 御霊の祭りは夏祭りとして定着していく（それ以前、祭りは春と秋に行うのが基本であった）。



末法の時代 における信仰

末法思想の流行 (11世紀)

- 末法 (The Latter Day of the Law; the Age of Dharma Decline; The End of Dharma)
- 正法 (釈迦以降の1000年)、像法 (次の1000年)、末法 (その後の1万年) という三区分による仏教の下降史観。
- 1052年が末法の第一年になると考えられた。政治の乱れ、災害や疫病の続発、僧兵の横暴などを背景として、末法が現実感をもって受けとめられた。

浄土教の流行

- 阿弥陀信仰
 - 「南無阿弥陀仏」を唱える。極楽浄土と共に地獄を描くことが盛んになる。
- 平等院鳳凰堂
 - 藤原頼通が宇治の別荘を寺院にした平等院に阿弥陀堂（鳳凰堂）をつくる。



弥勒信仰

- 仏滅後56億7千万年たつと、地上に下って仏となると信じられた。農民の間で、救世主としての弥勒信仰が広まった。



地藏信仰

- 弥勒菩薩が出現するまでの間、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を輪廻する衆生を救うとされた菩薩。
- この世と地獄の境に立つとされたので、村はずれの辻に地藏が立てられることが多かった。



観音信仰

- 観音菩薩は衆生を観て自在に救う菩薩と考えられた。様々な姿を変えて現れる。
- 平安中期には様々な観音を合わせて信仰する「三十三観音」の信仰が盛んになる。
- 三十三間堂

